

歩いてみよう

おもしろいぞ



この町は!!

みんなで町を歩きましょう。
お父さんやお母さんと、お兄さんやお姉さんと。
歩いてみながら面白いものを見つけてみましょう。
昔のことを知りながら今の生活を大事にしましょう。
今の便利な世の中は、昔の人の苦勞や悲しみの中から出来あがったものです。
そういうことも勉強しながら、昔の人に感謝しながら、さらにみんなで、よい町にしていきたいと思います。

この町には井戸がたくさんあります。
近隣の人々がこの井戸に集い、お互いに助け合いながら生活されていたことが想像されます。
昔の生活ぶりを思い起こしながら、これからのまちづくりを考えてみましょう。

平成13年3月に「向洋半島おもしろ発見マップ」を作成し、その後は、町の様子の変化を反映させながら、改訂しています。
このマップを有効に活用していただき「楽しい町歩き」の一助になればと願っております。

発行/平成23年7月
広島市南区役所市民部政振興課
広島市南区皆実町1丁目5-44
TEL (082)250-8935 FAX (082)252-7179
(財)広島市未来都市創造財団
広島市青崎公民館
広島市南区青崎1丁目12-7
TEL・FAX (082)281-3802

制作協力/向洋半島ほこり隊

地形の移り変わり

大昔、まだ広島市の町もなく、広島湾の中には仁保島があり、その東側には低い丘陵が半島のように突き出し、その周り是一片の海でした。
この半島には天女姫の悲しい物語なども残っていますが、人々が住み始めてからはみんなで力を合わせて、井戸を掘ったり、野菜を作ったり魚を獲ったり、新しい産業をおこしたりしてみないきいきと暮らしていました。
今、この辺りには一面平らな土地が広がり、半島であったとは思えない様子ですが、地形からも間違いなくここは半島であり、半島の恩恵を強く受け、半島を軸にして発展してきたところと言えます。
ここに住む私たちは、昔の人々の喜びや悲しみを思い起こしながら、残された自然を大切に、美しく豊かで住みよい町になるように努力したいものです。

各年代の地形と主な出来事

年代	出来事
★1100年代	1146 平清盛が安芸守になる 1161 厳島神社に平家納経 1179 平清盛が疱瘡神社を建立し、天女姫を祀り堀越を切り開く 1185 壇の浦で平家滅亡
★1600年代	1558~1569 永禄年間到大原神社創建 1600 関ヶ原の合戦 1619 浅野長見が広島城入城 1643 仁保島村測時で牡蠣の養殖始まる 1660 大須(大洲)新聞製版新聞完成 1662 仁保島新聞完成 1686 鹿籠新聞着工 1690 崎崎新聞着工 1695 堀越新聞着工
★1700年代	1701 府中外新聞着工 1702 赤穂浪士の討ち入り 1713 鹿籠新聞完成 1716 堀越新聞完成 1725 今宮神社を堀越に遷座 1729 府中新聞完成 1776 青崎新聞完成
★1800年代	1808 松石新聞(船越)完成 1836 入川新聞(船越)完成 1868 明治元年 1873 浦治新聞(船越)完成 1882~1887 賀原港の地先を埋め立て海岸道完成 1894 山陽鉄道(現JR在来線)広島まで開通
★1900年代	1912 大正元年 市内電車開通 1920 向洋製菓営業開始 1926 昭和元年 1929 広島市に編入 1931 マツダが現在地で操業開始 1937~1939 泉鏡川南岸改修工事 1945 広島市に原子爆弾・終戦 1964 仁保橋完成 1967 黄金橋完成 1983 洋光台造成工事完了 1984 向洋沖理立工事完成 1988 東部浄化センター通水開始 2002 向洋橋改築 2005~2006 今宮神社・疱瘡神社修築 2007 新堀越橋改築

堀越の丘に
小さな祠があるのをご存知ですか

今から850年くらい以上前の大昔のことです。その頃、京の都に天女姫という、それはそれは美しい姫君がいました。父は平清盛、母は常盤御前といいました。皆さんがよく知っている牛若丸の妹にあたります。

天女姫は生まれつき体が弱く、そのこともあって清盛はこのほか姫を可愛がっておりました。そして治承3年(1179年)2月に、清盛は「姫の病気を治すには、神様をお願いするしかない」と4歳の姫をつれて、はるばる京の都より船で厳島神社に参拝しました。しかし願いもむなしく姫の病はますます重くなり、ついに宮島で亡くなってしまいました。

清盛を始め皆もなげき悲しみました。そして清盛は姫が安らかに眠りにつくことの出来る場所を神様にお伺いしました。すると神様は「これより七里東、赤旗のあるところこそ姫が眠りにつくところです。ここに姫をおまつりしなさい。」とつけられました。

清盛がおつげに従って船を東にすすめたところ「仁保島・向灘」というところに赤旗が立っておりまして、清盛はこの地に姫を手厚く葬りました。そして、そこから八間東に神社を建てて姫をまつりました。これが疱瘡神社です。

そしてその丘を狐や狼などから守るために山を掘り切って堀を作りました。そのときに工事をする人達のためにつくった井戸が本川井戸です。そして清盛はこの地にしばらくいて姫の魂が安らかに眠るよう祈っておりましたが、その年の五月には都を指して帰ってまいりました。

そのあとも、姫の侍女であった人が、なくなるまでこの地において天女姫の魂を守ったそうです。

疱瘡神社と天女姫伝説

①天女姫は可愛らしく、病弱でもあったので清盛は大切に育てました。
②姫は天然痘にかかり、その病を治そうと、京の都から宮島まで連れてきました。
③一心に祈願しましたが、その甲斐もなく亡くなってしまいました。
④神のお告げにしたがひ、赤旗が立っている「仁保島 向灘」に姫を埋葬しました。
⑤姫のなきがらを、狐や狼から守るために、向灘の山を切り開いて堀をつくり、本川井戸をつくりました。

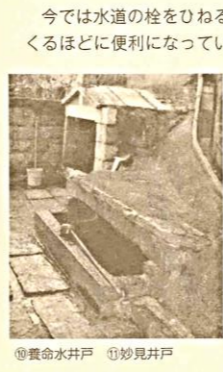
井戸物語

みんなで大切に守った生命の泉

それはそれは大昔、今の洋光台の団地があるあたりは松林の茂る半島の丘でした。広い海で囲まれ、西には仁保の島、遠くの方には比治山や宇品の島影が見えています。あるとき、海の方から、2・3隻の小船が、この半島の波打ち際に着きました。

船からは数組の家族がおりてきました。子供は、はしゃいで海岸を走り回っています。こうしてここに人が住み始めたのです。始めのうちは少しばかりの海岸の砂浜で、山水などを利用して、細々と生活をしていました。と思われまふ。

やがて次々と人が増えてきました。そこで「みんなで力を合わせてもっと便利な町を作りましょう」村人たちは、山裾を削って土地を広げました。そこに家を建て、道路をつくりました。みんなで使う井戸を掘りました。半島に降った雨は地面に吸い込まれて地下水になって井戸にわき出てきました。夏は冷たく、冬には暖かい不思議な水でした。なによりもおいしくて体によい水でした。夏の日照りにもかかわらず、海水が入ってくることもなく、井戸は長い間、使い続けられました。男たちは、早朝水をくみ家に持ち帰ります。女たちは野菜を洗いお米をといて朝食の準備をします。洗濯



⑩長命水井戸 ⑪妙見井戸 ⑫寶命水井戸

一度調べてみたいと思っています。

妙見井戸の思い出

泳ぎに行く前にスイカを冷やしておいて帰ってから食べた。2つの井戸は、一方が飲料用水でもう一方が洗い水用として使っていた。



井戸はみんなのふれ合い場!

月見山のロマン

平清盛は厳島神社を建てたり、吾戸の瀬戸を切り開いたり、広島には縁のある人ですが、洋光台にあった月見山にもしばしば訪れては月見の宴を催したそうです。

仁保村誌には「瀬野・奥海田山より出する月は、海田湾に映じて清輝幾里、明光昼のごとく人をして快哉を呼ばしむるの地なり」とあり、少しむづかしい言葉なので現代風に言いかえすと、「瀬野・奥海田に連なっている山々から出た満月が海田湾に映って、遠くの方まで美しいさざなみとなってきらめいていた。屋のように明るくて見事な情景である。」となるわけです。

月見山は、現在の向洋新町1丁目の東南端あたりの丘陵地。現在では、団地に変身、住宅が建ち並び、眼下に石油タンク、海田町にあるガスタンクや国道二号線、対岸の東部団地の施設や大きな貨物船の停泊が見え、海田湾も狭くなってしまい、完全に産業基地の様相です。

今でもこのあたりに立って、月の出を見ると清盛の時代と「月」は変わっていないようです。自然は変わってしまいましたが…

中秋の名月の頃、出かけてみませんか。



町あるき

こうして見つけた「わが町自慢ポイント」

いつも歩いている道だけどころいろいろな発見がありました



新発見がいっぱい! ◎これはどこにあるのかな?



2007.6.23 ④樋の浦井戸 大そうじ

本川井戸のところにある大きな銀杏の木樹齢は何年?



◎こんなところもあったよ



これは何の碑? 昭和3年に出来ていますヨ



みんなで探してみよう!

①瓦屋敷井戸跡	②本川井戸	③阿弥陀井戸	⑤大林井戸
⑨かんじん川井戸	⑩大森井戸	⑦梨の木川井戸	⑥赤田井戸
⑭澤井井戸	⑫奥の谷井戸		

「本川井戸の思い出」

昔(水道水の圧力の低い時代)は近所の家庭では風呂水として使っていたし、ちょっとした洗い物もしていた。戦時中には国防婦人会のお母さんがバケツリレーで防火訓練をしていた。